

秋田県議会議員

やすひと

宇佐見 康人

9月議会総括審査

イージス・アショアの配備に関することと防災減災の県の対応を取り上げました。イージス・アショアの配備に関するものでは、知事の防衛に対する考え方、防衛大臣への折衝時期などを問いました。また、会派からも「ゼロベースでの再検討」よりも更に厳しい姿勢での意見書を提出し、議会として採択されました。防衛上必要なものだからこそ、防衛省との窓口を閉ざさず住民の安全を最優先とし交渉していく必要性を訴えました。

防災減災については、昨今の異常気象により起きている日本中での災害対応を教訓に秋田県の防災マニュアルも常にアップデートをしていく必要性を問いました。例えば倒木が電線に引っかかった場合に除去するためには電力会社の社員でなければできない事となっています。しかし、予め協定を結んでおけば一定の条件で行政からの依頼で民間業者も撤去に当たることができ、迅速な対応が可能となります。県も電力会社と災害時にどのような協力関係を築けるかを協議していくという非常に前向きな答弁を得ることができました。

決算委員会総括審査

幼児教育等の無償化に伴った保育士・幼稚園教諭の処遇の改善と、ワークライフバランスの改善について問いました。保育士の確保が全国的に厳しくなっている中、保育士さんから直接現場の声をいただいています。そういった生の声を行政に反映させていくことが処遇の改善につながっていくと信じています。

ワークライフバランスについては男性が育児休暇をしやすいようにまとめて取得したり、細切れで取得したりする選択性の提案や、女性が企業で働きやすい環境づくりの更なる後押しを問いました。若い人たちが、秋田は日本一子育てがしやすいと思ってもらえるようにしていくことが、次の世代にとっても希望になると信じています。

12月議会一般質問では以下の事項について質問をしました。前向きな答弁をもらったものもあれば、構成が甘かったと反省しなければいけないものもあります。

子どもにやさしい秋田県に向けた取り組みについて

秋田県の子育て支援の取り組み状況と今後について

民間企業の協力も得ながら秋田県全体の子育て支援を進めていくとともに、子育て世代への効率的で分かりやすい情報提供に努める。

子ども達と共につくる秋田県にするために「参加する権利」の確保をしていくべきと考える

これまで子どもの意見や提案に耳を傾け県政に反映してきたが、今後も子どもたちが社会について考え、発信する機会の充実と、参加する権利の確保に向けて取り組む。

不登校の子どもへの対応について

不登校の子ども増加要因とその対応について

不登校の要因は、学業不振、心理的要因、家庭的要因、友人関係などがある。進学に伴い適応できずに悩み込むことも要因と考えている。個に応じた指導を充実させていく。

専門的なスキルを持つスクールソーシャルワーカーの増員を進めるべきと考える

必要性は高まることが予想される。各校に効果的な活用を周知を図り、配置人数等についても検討していく。

児童虐待対策について

児童幼児虐待にどう向き合っていくのか、また、虐待の根絶に向けて、具体的にどのように取り組んでいくのか

新複合化相談施設の整備に伴い、関連する福祉分野との連携により支援強化を検討していきたい。「児童虐待のないまちづくり」を県民と共に進めていく。

いじめ防止策について

いじめの認知件数の増加要因と改善方法について

積極的に認知しようとする姿勢が各校に浸透してきた。組織としてきめ細かな対応ができるよう指導体制の改善に努めていく。

いじめに関する相談体制を時代に合わせSNSの活用など整備していく必要があると考える

他県の先進的な取組を参考にSNSの活用した相談体制の構築を検討していく。

イージス・アショアの配備について

「県有地売却できない」との報道があったが真意は何か、また、新屋演習場以外の候補地が示された場合どのような姿勢で交渉に臨むのか

多くの県民が納得しないとの前提で、現時点で県有地の売却の議案を提出できる状況ではないということ。他の候補地が示された場合は、選定理由等説明を受け、周辺環境など勘案しながら分析、検討し意見を述べていく。粘り強く対応していくことが重要と考える。

12月議会総括審査

重度障害児者の支援について質問をしました。一度施設を見に来て欲しいと言われ訪問させてもらった事がきっかけで、重度障害者の支援の必要性を訴えました。今まであまりフォーカスされる事が少なかった問題であり、抱える課題は根深いものがあります。引き続き直接お話を聞き、全ての人が秋田に生まれたい良かたと思ってもらえるような秋田県にしていくために尽力していきます。社会を少しずつでも変えていくために、皆様のお力をお貸しください。

県民と自由民主党会派をつなぐ

Link

2020.1 No.36

一令和の時代の新しい秋田創りを一

ごあいさつ 自由民主党会派 会長 鶴田 有司

新春にあたり県民の皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。私たち県議会自民党会派は県政が掲げる、未来へつながるふるさと定住回帰、果敢に挑む産業振興、攻めの農林水産業、訪日外国人との交流拡大、元気に活躍できる健康長寿・地域共生社会などの重点戦略に関わる政策の実現と、経済・雇用対策の充実強化を進め新しい秋田創りを目指して参ります。

近年の自然災害は、従来では考えられない規模と地域で発生し、防災・減災の強化が必要不可欠となりました。県民の安全・安心のため、国土強靱化や北朝鮮によるミサイル発射の脅威の問題などに、自民党国会議員とともに力を合わせて取り組んで参りますので皆様からさらなるご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

今年56年ぶりの2020東京オリンピック・パラリンピック大会の開催で、明るく感動的な年となるよう期待されています。県民の皆様お一人おひとりととりまして、素晴らしい一年となりますよう、ご祈念申し上げます。



秋田港の夜明け

令和という新しい時代も早いもので2年目を迎えました。私自身も、6月議会で初めての一般質問に登壇してから、9月の総括審査、11月の決算委員会での総括審査、12月の一般質問及び総括審査など様々な場面で知事、当局に対して直接考えを伺うことができました。

「子どもに優しい秋田県」「次の世代に胸を張ってバトンを渡す」という視点を常に持ち質問しています。お時間のある方は、更に詳しい情報を県議会のウェブや私のウェブにも掲載していますのでご覧ください。最年少の議員として、また、子育て真っ只中の議員として、秋田県の子育て環境の更なる向上と、子ども施策の推進を強く訴えてまいりました。市議会議員の時に「子ども施策や子育て施策は票にならないよ。」と言われたことがあります。人口減少、少子高齢社会の秋田県において、子ども子育て施策を更に推進させなければ次の世代に元気な秋田を渡すことが出来ないの、例え何を言われてもどんどん声は発し、声を拾い、声を届けていきます。

秋田県の子育て施策を見れば全国と比較すると上位にくるくらいの充実度でもあります。やっっているけど届いていないという現状があるのではないのでしょうか。そういった課題も改善し、施策も満足度も向上できればと思います。

引き続き様々な媒体を使い情報発信に努めてまいりますので、お気付きの点がありましたらお気軽にあなたの気持ちを届けていただけると幸いです。



秋田県議会議員 宇佐見 康人

自由民主党秋田県秋田市第十三支部

〒011-0942 秋田市土崎港東二丁目3-29

電話 018-846-3737 FAX 018-803-4976

Web <http://yasuhi10.com> Mail info@yasuhi10.com

県民と自由民主党会派をつなぐ Link

発行/令和2年1月1日
ご質問、ご意見をお聞かせください。

編集/秋田県議会自由民主党会派 政務調査会
〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号[県議会内]
電話 018-860-2040 FAX 860-2102